

### (3) 作業遂行アセスメントとは

作業が遂行できるようになるために、作業療法の技術である心身機能の分析（人の分析）、活動分析（作業の分析）、環境の分析を行い、遂行を阻害している要因を明らかにする。また、作業目標の達成がそこからどの程度改善が見込めるか、どの程度達成できるかという予測についての予測までを行う。その上で、達成可能なニーズを決定する。また、このシートも対象者との面接の中で確認していくものであり、このプロセスの中には対象者自身に対する疾病教育、障害の理解、作業遂行を阻害している要因は何なのかを気づくことも支援する意図がある。さらに、達成可能にする現状の能力と予測を専門職の視点で説明、助言することで、対象者自らが取り組み方法を理解することができ、そのことが最終的に対象者に対し、日常生活の中での行動の変容を促すことになる。

### 作業遂行アセスメント表

様式 2



アセスメント項目		心身機能の分析 (精神機能、痛み・感覚、神経筋骨格・運動)	活動と参加の分析 (運動・移動能力、セルフケア能力)	環境因子の分析 (用具、環境変化、支援と関係)
作業遂行の問題を生じさせている要因				
作業目標達成可能な理由と根拠	現状能力 (強み)			
	予後予測			

#### (4) 生活行為向上プラン表とは

目標を達成するために、目標となる生活行為または作業の工程を分析する。それぞれに対して、心身機能を維持、改善するための練習（基礎練習）、生活行為に必要な動作などの練習（基本練習）、実際の生活場面を模した、もしくは生活行為そのものの練習（応用練習）、実際の環境(道具など)のかかわり、人とのかかわり、社会とのかかわりを考慮した本人の望む、本人にとって意味のある、価値のある生活行為を実現するための練習（社会適応練習）の4つの段階を組み合わせ、プログラムを立案する。また、そのプログラムを本人も含め、いつ、どこで、いつまで、誰が支援するのかを項目毎に書く。

#### 様式 3

### 生活行為向上プラン表

相談者： \_\_\_\_\_

記入日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

達成可能なニーズ	作業工程分析		評価		達成のためのプログラム				いつ、どこで、誰が支援して行うか (通所、家、外など) (本人、家族、スタッフ)	達成	
			前	後	基礎練習	基本練習	応用練習	社会適応練習			
企 画 準 備 力  PLAN			1	1						<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 変更達成 <input type="checkbox"/> 未達成 <input type="checkbox"/> 中止	
			2	2							
			3	3							
			4	4							
			5	5							
	実 行 力  DO			1							1
				2							2
				3							3
				4							4
				5							5
	検 証 完 了 力  SEE			1							1
				2							2
				3							3
				4							4
				5							5

1. 一人で可能    2. 手掛かりや見本があれば可能    3. 練習により可能    4. 一部手助けが必要    5. ほとんど手助けが必要

## 生活行為向上向上プラン表の解説

### ■作業工程分析

- 「**企画・準備力 (PLAN)**」: いつ、どこで、誰と、何を、どのようにすれば目標とする作業を実施できるのかを、本人が主体的に考え、検討できる能力。さらに企画したことを実行に移すために、具体的な準備を自ら行うことのできる能力をいう。
- 「**実行力(DO)**」: 目標とした作業を実際に行なうための一連の作業活動能力をいう。基礎的動作の反復や意味のある作業体験等が含まれる。
- 「**検証・完了力 (SEE)**」: 実行するためにどのような配慮や注意が必要だったかを含め、目標とする作業の達成に必要な条件を自ら検証する能力。検証の結果、達成の可否について評価し、その結果を基に今後の筋道を立て、次の企画につなぐことのできる能力をさす。

### ■プログラムの分類

- 「**基礎練習**」: 作業を遂行するために筋力や体力などの心身機能の改善をはかる練習をさす。基礎練習の実践は、作業療法士が個別で行う、他のスタッフの援助のもと行う、本人に方法を伝え自主トレーニングとして行う、集団で行うなどの方法がある。また、自宅においても、方法を提示することで、本人が一人で行うことも可能である。基礎練習の例としては、筋力増強や関節可動域訓練、全身持久力訓練、全身調整運動、バランス訓練などが挙げられる。
- 「**基本練習**」: 歩行や立ち上がり、トイレ動作のシュミレーションなど作業に必要な動作を繰り返し行う練習をさす。基本練習も作業療法士が個別で行う、他のスタッフの援助のもと行う、本人に方法を伝え自主トレーニングとして行う、集団で行うなどの方法がある。また、自宅においても、方法を提示することで、本人が一人で行うことも可能である。基礎練習の例としては、階段昇降、立ち上がり、物を持つての歩行、トイレ移乗動作、更衣動作練習などが挙げられる。
- 「**応用練習**」: 意味のある作業そのものを実践により行う練習をさす。病院や各施設においても、自宅にある物と類似の道具を用いた様々な模擬的な作業遂行が可能である。応用練習の例としては、施設内での調理練習や昼食時の配膳、下膳、食事後の机を拭く、掃除、荷物や道具の運搬、施設の周辺での散歩などが挙げられる。
- 「**社会適応練習**」: 自宅やお店などに出向いて、作業する実際の環境で行う練習をさす。目標とする意味のある作業の遂行力向上のためには、実環境での作業遂行が可能であるかの確認を行うことが大切である。実際に作業療法士が本人の自宅や実施する環境に出向き、作業遂行状況を確認し、環境面の調整や動作の変更の検討を行うことが望ましい。また、訪問リハビリテーションの活用やケアマネジャー、訪問介護との連携、家族の協力を得るなどの工夫を行い実施する。

(5) 作業をすることで元気になる申し送り表とは

医療機関から地域のサービス提供者に対し、また通所サービス提供者から在宅での支援者に対し、対象者が練習によって獲得した生活行為・作業能力の継続が退院後または、修了後もできるように配慮することが大切である。そこで、対象者が「したいと思っている生活行為」または「意味のある作業」や、その遂行できる能力、実施方法など申し送る申し送り表を作成した。

様式 4

作業をすることで元気になる申し送り表

対象者： \_\_\_\_\_

機関名： \_\_\_\_\_

記入日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

